



第 16 号

1994年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



弥生時代後期の集団墓地

弥生時代後期の集団墓地

～国道429号線改良に伴う発掘調査～

都窪郡山手村宿の平山22・23号墳の発掘調査は、国道429号線改良工事に伴い、平成5年6月から平成6年2月にかけて実施されました。調査の結果、古墳時代中期の方墳以外に、弥生

時代後期前葉から終末にかけて作られた集団墓地在検出されました。この集団墓地は、約124基の直接地面に長方形の穴を掘って埋葬したお墓（以下、「土壇墓」と呼ばせてもらいます。）

と、乳幼児を埋葬したと考えられる壺や甕を棺として使用したお墓15基ほどで成っています。この土壙墓群の配置が非常に珍しいもので注目されています。以下、この集団墓地を中心に調査の概要を紹介したいと思います。

本遺跡は、山手村の南の山塊から総社平野に向けて北に開く扇状地に張り出す尾根上にあります。この尾根に立つと、作山古墳や備中国分寺などが一望の下に見渡せます。この尾根は、いったん浅い鞍部をつくり、先端部が高まります。土壙墓群は、その高まりを中心に、頂部平坦面から下方斜面にかけて作られています。斜面のものは3段の階段状に尾根先端部をぐるりと取り囲むように列を成しています。頂部平坦面に39基（標高52～51m）、斜面上段に22基ほど（標高49m付近）、斜面中段に50基ほど（標高48m付近）、斜面下段に13基ほど（標高47m付近）で、特に斜面中段の土壙墓群は1ヶ所5mほど空きますが、西～南にかけて約50mにわたり、ずらりと並んでいます。尾根の鞍部



斜面中段の土壙墓群

を越えて山側には土壙墓はなく、尾根先端部分で墓域は完結しています。全体的な傾向としては、土壙墓は等高線に直交、あるいは平行に密集して作られていること、墓穴の大きさは、どの群にも2.5×1.0m前後の大形のものから1.2×0.6mあまりの小形のものまであること、また棺と墓穴のすきまに土とともに、石を比較的多く用いて詰めていること、そして、多くが木棺を直接埋葬していると考えられること、などが挙げられます。しかし、墓穴の床面に、木棺材を立て据えるための溝（小口溝・側板溝）を持つものは頂部平坦面の土壙墓に多く、平らな、

あるいは中程が浅く窪んでいるものは斜面の土壙墓に多いこと等、群単位の違いもみられます。また、このような土壙墓の中に他と異なる点を持つ土壙墓が2基あります。1基は頂部平坦面にあり、石英の岩脈に岩を割り抜いて作られています。墓穴は2.8×1.3mと最も大きく、しかも、隣接して土壙墓が作られていません。もう1基は斜面下段の群中にあり、約2×2mの方形平坦面を作り出し、その2辺に石列を配しています。墓穴は1.6×0.7mほどです。これら2基とも副葬品はありませんが、他の土壙墓に埋葬された人々とは少々性格の異なる人物の墓と思われる。さて、この土壙墓群の時期ですが、供えられたと思われる土器片がコンテナ30箱ほど出土しています。しかし、多くは流土中からの出土で個々の土壙墓の時期は特定できません。調査中の所見に基づいて大づかみに言えば、頂部平坦面では、弥生時代後期前葉～中葉の土器、斜面では終末の土器がまとまって出土していることより、頂部平坦面で土壙墓が作られ始め、順次、斜面へと墓域を移していった可能性があります。

古墳時代に入り、5世紀中頃と思われる時期、尾根鞍部に方墳2基（22・23号墳）と木棺墓1基が作られています。22号墳は一辺12mの方墳で、埋葬は箱式石棺です。棺内には1体分の人骨が遺存していましたが、副葬品は認められませんでした。22号墳は一辺7.5mの葺石を持つ小形の方墳です。埋葬は箱式石棺で刀子1点が出土しました。木棺墓は古墳から3～4m離れ南の緩斜面にあります。棺内に20点ほどのガラス小玉と鉄器1点、棺外に土師器（甕1、埴2）と土製紡錘車が1点副葬されていました。小口溝が1対掘られています。その1方から外へ延びる排水溝が検出され注目されました。

この他、時代不明の箱式石棺2基（うち1基は内法55×15cmの小形のもの）や性格不明の石列なども検出しています。

以上、この遺跡は、特に弥生時代後期の地域小集団の構造や変遷、また、社会構造を考える上で、極めて重要であると思われる。

（物部 茂樹）

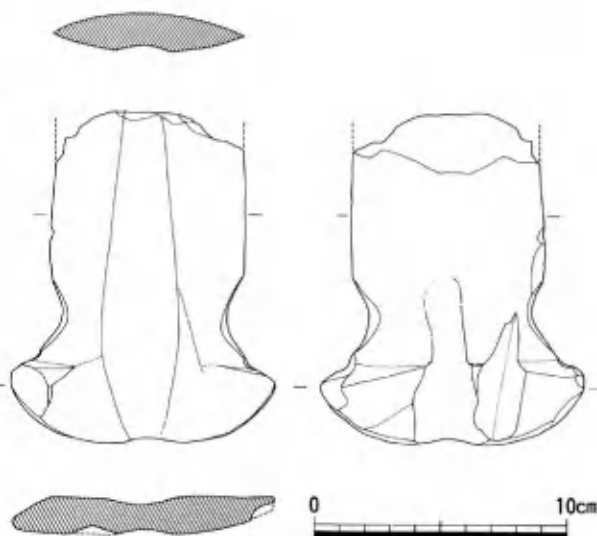
最近の発掘調査から

百間川沢田遺跡出土の磨製石剣

ここに紹介する磨製石剣（短剣）は、岡山市沢田に所在する百間川沢田遺跡の溝下層から出土したものです。溝の時期は、多くの突帯文土器にわずかに混在する弥生時代中期中頃の土器に求められます。

磨製石剣は基部側の破片で、残存長6.5cmを測ります。両面中央には浅い凹みが認められますが、片面は明瞭ではありません。身は断面レンズ状を呈し、関幅3.8cm、厚さ8mmを測ります。身から把頭間は両側から抉りを入れ、短い柄状の部分を作り出しています。把頭は身幅より幅広く、両面とも柄より段をつけて厚くしています。石材は粘板岩と考えられます。

この磨製石剣は、所属する時期について不明な点が多く、形態もあまり類例のないものです。
（平井 勝）



総社市奥ヶ谷窯跡出土の初期須恵器

奥ヶ谷窯跡は1993年11月から中国横断自動車道の建設に伴い発掘調査を行いました。

この窯は、須恵器という土器を焼くためのもので、丘陵の斜面を利用して築かれていました。出土した約260片の土器から、中国地方で最古の須恵器窯であることがわかりました。

出土した須恵器の中では、表面をハケで粗く掻いたような（ハケメ調整）甕の破片が大半で、他には高杯があります。また、同時に見つかった素焼きの土器などから、渡来系の人々がここで須恵器を焼いていたと思われます。

須恵器を作る技術は、古墳時代中頃（5世紀前半）、当時の最先端技術として渡来人によりわが国にもたらされました。それまで使っていた素焼きの土器とは異なり、窯で焼いた須恵器は非常に硬く、水などが漏れにくい性質があります。当時の権力者たちは競うようにその技術を受け入れようとしたことでしょう。

現在のところ吉備では、この窯以後約100年

あまりの間の須恵器窯が見つかっていません。この地域で最初に須恵器を焼いた人たちやその技術はどのように移動し伝播したのでしょうか。今回の窯跡の発見は、そうした研究の第一歩でもあります。
（柴田 英樹）



奥ヶ谷窯跡出土須恵器

センターの年間事業（平成五年度）

調査第一課

平成五年度における調査第一課の体制は三係、総数25名の調査員で各種事業に従事しました。本年度の発掘調査は事前協議に伴うものが、11事業17遺跡ありました。その他に市町村指導の調査を数多く実施しております。報告書作成では、来年度刊行に向けて準備中の南溝手遺跡、足守川矢部南向遺跡、加茂A、B遺跡の遺物整理等を行いました。さらに、本年度からは国庫補助金を受けて3ヵ年計画で遺跡分布調査を開始しました。これは、リゾート関連開発や地域振興策による大規模開発が計画されている県北部や幹線道路建設計画のある県内数ヶ町村の分布調査を県内考古学研究者、調査対象市町村教育委員会から推薦を受けた文化財保護委員を調査員に委嘱し、実施することになりました。本年度の調査対象町村は、県北では奥津町、阿波村、大原町、西粟倉村、県内では吉井、佐伯、赤坂、熊山、瀬戸、山陽の各町であり、踏査の結果、遺跡を新規に発見するなど多大な成果を得ており、来年度以降も成果が期待されています。

本年度の発掘調査で注目される遺跡としては、国道429号線改良工事に伴う平山22、23号墳の調査がありますが、調査成果については本誌巻頭で触れていますので割愛します。米田排水機場建設に伴う米田遺跡（岡山市）では、鎌倉時代を中心とする集落遺構が検出され、前号（15号）で調査成果が掲載されていますが、その後の調査で橋梁遺構が検出されました。河道内からは多量の木製品（箸、曲物、下駄、杓文字、



長縄手遺跡・縄文時代の住居跡

塔婆など）が出土しています。

県立備前高校の校舎改築に伴う長縄手遺跡では、中、四国地方でも極めて珍しい

縄文時代中期末（約4000年前）の竪穴住居址3棟と土壙5基が検出されています。竪穴住居は3棟とも規模や平面プランが異なりますが、いずれも中央部に炉を持つものです。最も大きな竪穴住居は約6.5×6mの隅丸長方形で、炉のまわりから2本の柱穴がみつかったため、この竪穴住居は2本柱で建てられていたことが判明しました。出土した土器は磨消縄文という文様が施され、その器形、文様から近畿地方で「北白川C式」と命名されている土器に類似していることが指摘されています。このように、今回の調査で、当時の集落構成や生活を知るうえで重要な知見を得ることができました。



政所遺跡・平安時代の土壙墓

一般県道大内田高松線建設に伴う津寺一軒屋遺跡の調査では、足守川の堤防直下で実施した調査区において、弥生時代後期から中世までの遺構を検出しました。特に、調査区北西部では古墳時代前半の可能性のある複数の鍛冶炉や作業面とともに多数の鍛造剥片や加工鉄片が出土しました。このことは、近年、総社市の窪木薬師遺跡で確認されたような鉄製品を生産する集団の存在を確認したことであり、極めて重要な意義をもった調査でありました。

なお、普及啓発事業では例年どおり、7月にスライド・パネル展示による岡山県下における埋蔵文化財調査概要の報告会、8月に夏休み少年考古教室、2月には埋蔵文化財専門職員研修会を実施しました。その他に、当センター収蔵の金光町の遺物（上竹西の坊遺跡、加賀池散布地、宮地池散布地）を本年度中に一括譲与する予定です。（松本 和男）

調査第二課

平成5年度、調査第二課は山陽自動車道（岡山・備前工事区）の建設に伴う発掘調査報告書作成、中国横断自動車道（総社工事区）建設に伴う発掘調査、同（津山工事区）建設に伴う発掘調査報告書作成を実施しました。

山陽自動車道（岡山工事区）建設に伴う発掘調査報告書は、昭和63年度から平成2年度まで発掘調査を実施した岡山市の津寺遺跡（野上田・西川・中屋調査区）を掲載する予定です。

山陽自動車道（備前工事区）建設に伴う発掘調査報告書は、昭和63年度から平成4年度まで発掘調査を実施した瀬戸町・山陽町所在の7ヶ所の遺跡・古墳群を掲載する予定です。

中国横断自動車道（津山工事区）建設に伴う発掘調査報告書は、昭和63年度から平成元年まで発掘調査を実施した川上村・久世町・落合町所在の6ヶ所の遺跡・古墳群を掲載する予定です。

中国横断自動車道（総社工事区）建設に伴う発掘調査は、総社市所在の藪田古墳群・金黒池東遺跡・奥ヶ谷窯跡・中山6、7号墳・西山1号墳・服部遺跡、岡山市所在の高松田中遺跡などを実施しました。

藪田古墳群の調査は、3号墳・4号墳と周辺の遺跡確認調査を行い、7号墳の調査が来年度に残りました。

3号墳は長径9m・短径8mの楕円形墳で、外護列石を有しています。横穴式石室は、全長6.5mで、片袖です。天井石が5枚残存していたものの玄室内部は攪乱されていました。遺物は、羨道から須恵器が十数点出土しています。



奥ヶ谷窯跡遺物出土状況（南から）



中山6号墳 竪穴式石室（南から）

4号墳は、横穴式石室で、5.5m残存していました。当初巨石が畑の石垣に利用されていたため、全壊しているものと考えていましたが、内部の遺存度が良く、人骨・須恵器・土師器・刀・鎌などが出土し、棺釘も原位置に近い所から出土しています。4号墳の下層からは6世紀前半の竪穴住居が検出できました。

金黒池東遺跡は、縄文中期から後期の土器・石器、奈良時代の火葬墓から銅製帯金具（巡方）が2点出土しています。

奥ヶ谷窯跡は本年度新発見されたもので、窯本体の残存は2m弱です。出土遺物から中国地方初の初期須恵器窯跡であることが判明し、2月に記者発表を行いました。

中山6号墳は一辺13mの方墳で、四辺に円筒埴輪列を巡らし、家形・動物など形象埴輪もあります。埋葬主体部は竪穴式石室で、二棺あり、第一主体部からは刀・鎌・斧・鋤・土製紡錘車、第二主体部から鎌・斧・鋤・鎌と2000個のガラス玉が出土しました。7号墳の主体部は石蓋土壙です。古墳周辺からは弥生中期の竪穴住居・建物などが検出されています。

西山1号墳は4基の古墳（方墳）と2軒の弥生時代中期竪穴住居が検出でき、D号墳からは竪櫛・玉類・家形・ゆき形・盾形埴輪などが出土しています。

服部遺跡は、第一次調査を5月に行い、12月から南側道部・北側道部分の調査を開始しました。縄文時代晩期、弥生時代前～後期、鎌倉・室町時代の溝を検出しました。高松田中遺跡は、第一次調査後、南側道の調査を1月から開始しました。（浅倉 秀昭）

調査第三課

本年度の調査第三課の事業は、旭川放水路（百間川）の改修工事に伴う発掘調査と報告書作成、国道53号北バイパス建設に伴う発掘調査と報告書作成、新勝中央核工業団地建設に伴う発掘調査および中国横断道（高梁工事区）建設に伴う発掘調査を実施しました。

旭川放水路の調査は、昨年度調査範囲の上流部にあたる低水路右岸側の岡山市百間川兼基遺跡および同沢田遺跡を対象として、4月から年間を通じて行いました。微高地の縁辺部には弥生時代中期に埋没した旧河道や、その上層に同後期末水田とその水田へも掘削が及ぶ古代～中世の大溝などが検出されています。また、水田面には部分的に稲株らしき痕跡も認められました。微高地には、端部に沿って弥生中期初めから同後期末までの時期の用水路が数本、ほぼ同位置に踏襲されていました。弥生中期の用水路内には、比較的多くの土器片やサヌカイト片が出土していますが、中でも縄文晩期の突帯文土器片の混入が目立っています。さらに、弥生前期の基盤層にあたる黄色砂質土層中には、部分的にですが突帯文土器片とその下部に磨消縄文土器片が散見され、近隣に縄文後・晩期の集落の存在が予測されます。ほかに、古墳時代前期の住居址も検出され、隣接する同時期の包含層中から赤色顔料を磨りつぶすのに使用した石杵が出土していて、注目されます。

国道バイパスの調査は、岡山市の西山古墳群のうち新たに発見された5～12号の横穴式石室墳等8遺構について4月から8月まで実施し、9月から古墳群全体の報告書作成に入りました。これらの調査成果については、本誌前号に詳しくのり愛します。

新勝中央工業団地の調査は、分布調査により新規に発見された古墳等を加えて、全体で12基の古墳（畑ノ平2～11号墳・西大沢1～2号墳）と2ヵ所の遺跡（虫尾遺跡第1・2地点）を対象にして4月から年間を通じて行いました。畑ノ平の9基の古墳は、いずれも6世紀後半～7世紀初めの横穴石室（11号墳は堅穴式石室）を主体とする円墳または楕円形墳で、墳丘規模は

径約6～13m。いずれも石室の天井石と側石の一部（2・8号墳は大半）を消失していましたが、床面の遺物が比較的良好に残存している古墳が多かった。遺物のうち通常副葬される須恵器や鉄器類、玉類等のほかでは、2～6・10号墳から鉄滓が出土していて注目されます。西大沢1・2号墳は、尾根の頂部に立地する径約8mと13mの円墳で、主体部は木棺直葬と堅穴式石室。どちらも墳頂部に盗掘を受けていて、副葬品は見つかっていません。2号墳の周堀出土の須恵器からは、5世紀後半～6世紀初めの時期が考えられます。虫尾遺跡は南向きの緩斜面に立地する2ヵ所の地点に、平安時代の建物や土壙（第1地点）、縄文時代後期の落とし穴状土壙（第2地点）等が見つかっています。

中国横断道の調査は、北房町～賀陽町間の大村中世墓群など9遺跡のうち、高梁市粧田山城を除く8遺跡を対象として実施しました。そのうち北房町片山城跡・有漢町畦地遺跡・大鳴古墳群・賀陽町祖谷遺跡は、遺構が確認されていません。賀陽町大村中世墓群と近世建物跡は昨年度に引き続き8月まで実施し、丘陵南緩斜面に広がる約400㎡の範囲の集石墓中に安土桃山時代前後の亀山焼や備前焼の骨蔵器が60個体以上確認され、近世の土葬墓も昨年度調査分を含めて、約200基検出されています。ほかに、近世の建物や幕末前後の建物なども明らかにされました。とくに中～近世墓の大規模な調査は県下で初めてであり、成果が注目されています。北房町大木古墳群（1～3号墳）は、舌状尾根の頂部に占地する径13～10mの円墳で、主体部は木棺直葬。棺内遺物は1号墳から鉄刀2本が出土しているのみで、ほかに同墳の周堀から鉄鉾、2号墳の周堀から5世紀末～6世紀初頭の時期の杯身3と杯蓋2が出土しているに過ぎません。また、集落跡がこの尾根上の片山城跡のトレンチ調査で新規に発見され、弥生時代後期の住居址7軒や中世の土壙墓などが見つかりました。隣接する平野部の宮地散布地は、丘陵端部にのみその広がり確認され、弥生時代後期から古墳時代にかけての柱穴や溝などを多少検出したに留まりました。（柳瀬 昭彦）

普及啓発事業

平成5年度埋蔵文化財担当者研修会

当研修会は、埋蔵文化財行政への理解と埋蔵文化財保護の伸展を図る目的で企画されているものです。県下の行政機関において文化財保護行政を担当する職員を対象とし、隔年で実施されています。本年度は、講師に大阪府教育委員会主査広瀬和雄氏と、福岡大学人文学部教授小田富士雄氏とをお迎えし、平成6年2月16日当センターにて実施されました。

広瀬氏は、「東アジアの中の前方後円墳」と題して、朝鮮半島の古墳とわが国の古墳とを比較した場合、日本の古墳の巨大性・多様性・装飾性といった特徴があり、それらによって、日本の「王権」のもつ性質や、古墳時代の日本の社会構造は、首長と農民層の間に中間層のない



円錐台形であり、また首長間格差の大きな社会であったことが推察できることを説明されました。お話の最後では、これからの考古学研究がふまえておくべき指針、あるいは、埋蔵文化財行政担当者が必要とされる資質は何なのか、といった点についてご自身の考えをのべられました。

小田氏は、「日韓の交流 —初期須恵器について—」と題され、ご自分が現地で撮影してきた180枚におよぶ韓国須恵器のスライド映写を通して、韓国須恵器と日本の初期須恵器の関連性についてくわしく説明されました。お話の中で、土器編年において、一つの器種のみ注目するのではなく、さまざまな器種をセットでとらえることの重要性や、実物を自分の目で見て判断することの大切さを強調しておられました。

(横野 芳典)

報告書の刊行について

本年度刊行の報告書についてお知らせします。

- ①岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88
 『旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査』Ⅱ
 …百間川原尾島遺跡3 弥生～古墳時代の集落跡、中世の掘立柱建物ほか ￥ 未定
- ②岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89
 『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』8
 …岡山市津寺黒住地区の古墳・集落跡ほか ￥ 未定
- ③岡山県埋蔵文化財発掘調査報告90
 『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』9
 …三手遺跡・津寺遺跡北部他 古墳時代住居跡、中世墳墓群・水田跡・集落跡

- ④岡山県埋蔵文化財発掘調査報告91
 『中国横断自動車道（川上～落合）建設に伴う発掘調査』1
 …上野遺跡と元定古墳群他 弥生集落、古式群集墳 ￥ 未定
- ⑤岡山県埋蔵文化財発掘調査報告92
 『中井・南反田遺跡（備前国府推定地）』
 …沖積平野に立地する5世紀代の古墳群
 ※頒布なし
 入手ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。
 岡山県文化財保護協会
 （岡山県教育庁文化課内）
 TEL 086-224-2111（内線）4415
 なお当センターでもお願ひしております。

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表 (平成5年度)

遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(m ²)
1 津島遺跡・中瀬遺跡	岡山市学南町	景道建設	弥生時代～近世の本田・落池	4.1～3.31	3924
2 大田遺跡	津山市大田	リゾートセンター建設	縄文時代～近世の集落	4.1～4.30	9097
3 馬場崎遺跡	倉久郡倉久町尾張	高校施設改修	弥生時代および近世の集落	4.19～5.21	215
4 高松・沢田遺跡	岡山市高松原古才	高校校舎改築	遺構、遺物なし	4.21	60(確)
5 畷岡本徳寺遺跡	岡山市畷岡本徳寺	電線埋設	弥生～古墳時代の集落	5.17～5.28	130
6 大田茶屋遺跡	津山市大田	県道建設	縄文時代～近世の集落・屋敷	5.1～12.6	3557
7 十六夜山古墳	津山市穂高下	高校校舎改築	古墳	8.2～8.23	150
8 長縄手遺跡	備前市西片上	高校校舎改築	縄文時代の集落	8.26～8.30 9.6～10.12	60(一)
9 塚遺跡	備前郡御津町宇田	駐在所建設	縄文時代包含層	11.24	25(確)
10 政所遺跡	岡山市高松原古才ほか	送水管理施設事業	弥生時代～中世の集落	4.1～3.31	1264
11 米田遺跡	岡山市米田	排水機場建設	古代水田、中世の集落	4.1～3.31	2558
12 三本木・一軒屋遺跡	岡山市津守	県道改良	弥生時代～中世の集落	4.1～6.30	400
13 田益遺跡	岡山市田益	県道建設	弥生時代の集落	4.1～9.10	2070
14 鎌戸原散布地	都窪郡山手村	国道改良	弥生時代包含層、中世の溝	4.1～6.16 1.5～1.21	910.5
15 平山22、23号墳	都窪郡山手村宿	国道改良	弥生時代土曜墓群、古墳ほか	6.16～8.31 11.1～2.15	1608
16 小中遺跡・小中古墳群	勝田郡勝安町岡	ファミリーマート建設	弥生時代～中世の集落、古墳	7.1～3.31	5500
17 福里遺跡・土師東遺跡	倉久郡長船町福里・土師	河川改修	弥生時代の溝	9.1～11.30	3744
18 三須遺跡・高田遺跡	総社市三須	国道改良	弥生～古墳時代の集落	12.21～12.22 1.24～3.31	407
19 服部遺跡	総社市黒尾・北溝手	中国横断道建設	弥生時代の集落	4.12～5.13 12.1～3.31	72(一) 3972
20 津木遺跡	総社市津木	中国横断道建設	弥生時代の集落・水田	4.12等5.13	44(一)
21 金黒池東散布地	総社市福井	中国横断道建設	縄文時代包含層、古代墳墓	4.13～5.13 5.17～6.4	92(一) 358
22 中山6、7号墳	総社市福井	中国横断道建設	弥生時代集落跡、古墳群	6.7～8.23 11.4～12.8	1950
23 西山1号墳	総社市黒尾	中国横断道建設	弥生～古墳時代の集落	8.17～11.8 12.9～1.21	1531
24 敷田古墳群	総社市見延	中国横断道建設	古墳群、古墳時代の集落	4.12～5.13 9.1～3.10	190(一) 628
25 奥ヶ谷窯跡	総社市福井	中国横断道建設	5世紀代須志器窯跡	11.5～12.8	450
26 高松田中遺跡	岡山市高松田中	中国横断道建設	弥生時代の集落、水田跡	4.12等5.13 1.24～3.31	52(一) 702
27 北溝手遺跡	総社市北溝手	中国横断道建設	弥生時代の水田	4.12～5.13	68(一) 630
28 大村中世墓群ほか	上房郡賀陽町上竹	中国横断道建設	中世墓、中近世建物	4.1～8.31	1655
29 畦地遺跡	上房郡有漢町有漢	中国横断道建設	遺構、遺物なし	4.12～4.14	100(一)
30 組谷遺跡	上房郡賀陽町組谷	中国横断道建設	遺構、遺物なし	4.21	4(一)
31 大馬古墳群	上房郡有漢町有漢	中国横断道建設	遺構、遺物なし	4.26～4.27	150(一)
32 宮地散布地	上房郡北房町宮地	中国横断道建設	弥生時代～古代の集落	4.9～4.21 11.1～3.31	318(一) 1600
33 太木古墳群	上房郡北房町宮地	中国横断道建設	弥生時代の集落・古墳群	11.1～3.31	1300
34 片山城跡	上房郡北房町宮地	中国横断道建設	遺構、遺物なし	11.1～11.30	100(一)
35 兼基遺跡・沢田遺跡	岡山市兼基・沢田	旭川放水路改修	縄文時代～中世の集落、水田	4.1～3.31	4320
36 西山古墳群	岡山市相谷	国道バイパス建設	古墳群	4.1～7.31	1210
37 虫尾遺跡	勝田郡勝安町平	新勝安工業団地建設	縄文時代のおとし穴 平安時代の集落	4.1～5.31 8.12～9.14	1320(一) 2360
38 畑ノ平2-11号墳	勝田郡勝安町畑ノ平	新勝安工業団地建設	古墳群	6.1～8.11 9.10～3.31	2485
39 西大沢1、2号墳	勝安郡勝安町畑ノ平	新勝安工業団地建設	古墳群	11.29～3.1	625

(確) 確認調査 (一) 一次調査



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086) 293-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分